

## ■2040なりたい未来となりたいまちの姿・行政経営のあり方について

資料7-1

まちづくりの方向性と行政経営の方向性を受けて、町田市が目指す「なりたいまちの姿」と「行政経営のあり方」、そして、それを実現した2040年の町田市のイメージである「2040なりたい未来」を以下のとおり示します。

### 2040なりたい未来

### キャッチコピー（資料8参照）

### なりたいまちの姿・行政経営のあり方

#### なりたいまちの姿①（資料7-2参照）

##### 市民ワークショップ提案案

- ・わたしがたくさんの夢を描けるまち
- ・子どもと一緒に笑顔になれるまち
- ・わたしが、ここで育ったことを誇れるまち

##### ベースとなる説明文

2040年の町田市を担っていくのは、いまの子どもたちです。その子どもたちがまちへの愛着を深められるよう、様々な体験や挑戦ができる環境を提供していくとともに、子どもたちの持つ柔軟な発想に耳を傾けていく必要があります。

また、子どもたちがいつも笑顔で健やかに成長していくにあたっては、周りの大人たちも楽しく暮らしているということが重要になります。そのためには、親、祖父母、地域、学校、職場、行政などが互いに協力し合いながら、それぞれにできることを行い、社会全体で子どもを育てていくことが望まれます。

#### なりたいまちの姿②（資料7-3参照）

##### 市民ワークショップ提案案

- ・東京にあるちょうどいいカントリーシティ
- ・ちょっといいちょうどいい暮らしができるまち
- ・わたしの暮らしが見つかるまち

##### ベースとなる説明文

東京の郊外に位置する町田市は、中心市街地においては大小の商業施設が軒を連ねる一方、北部丘陵においては豊かな自然も有しています。また、小田急線とJR横浜線が交差し、都心や箱根方面、横浜や高尾方面に出やすいという好立地に加え、リニア中央新幹線の神奈川県駅にも近く、多摩都市モノレールの延伸も期待されています。

このように町田市は、仕事でも遊びでも、何か行動を起こすときの拠点とするのにちょうどよく、この地域特性を更に生かしつつ、町田市に住む人や働く人のみならず、近隣都市に暮らす方々も巻き込みながら、多世代の交流ができるような場づくりを進めるなど、やりたいことを即実行に移せる環境整備が望まれます。

#### なりたいまちの姿③（資料7-4参照）

##### 市民ワークショップ提案案

- ・まちが家族しているまち
- ・つながりが力になるまち
- ・誰もが自分らしくいられるまち

##### ベースとなる説明文

町内会・自治会や小・中学校区、あるいは近所の家の並びなどで分けられた「地域」というものは、私たちの生活における支え合いの基本となるものです。様々な境遇や考え方の人が暮らす中であっては、必要とする人が必要な支え合いに参加できることが暮らしやすさとなり、住み続けたいと思う愛着を持つことにつながると考えられます。

また、多様な考えを持つ人が、自分たちで地域のことを決めていくことができれば、これまでなかったような地域の特色を育むとともに、誇りを持って住み続けることにもつながります。

多様性の時代においては、このような地域を構築していくことが望まれます。

#### 行政経営のあり方（資料7-5参照）

- ・市民から信頼され、共感される行政経営
- ・革新的なサービスを生み出す行政経営
- ・強みと魅力を活かした戦略的な行政経営

##### ベースとなる説明文

町田市が将来にわたって選ばれていくためには、愛着や誇りを持つ「シビックプライド」を醸成できるまちづくりを行い、市民一人ひとりが幸せを感じる事が大切です。

そのためには、持続的に成長していくことができる仕組みや、これまでにない新たな価値を市民とともに作りあげること、市民の期待に応え、市民から信頼される行政経営を実現していきます。

町田市では、本市の持つ強みや魅力を活かした、町田市ならではの質の高い行政経営を実現するため、「多様なパートナーと新たな価値を共創する公共サービスのオープン化」と「最先端の技術を活用した快適で利便性の高いまちを実現する公共サービスのスマート化」に取り組んで参ります。

このことに加え、世の中の変化を的確に捉え、常に変革し続けることができる経営能力の高い職員を育成していくことで、革新的なサービスの創造と生産性の向上を両立していくことのできる組織体制を構築していきます。